

「奄美地方における集中豪雨災害」時の大和ダムの効果

大和ダム周辺では、平成22年10月18日午後9時頃から雨が降り始め、しばらく小康状態が続きましたが、翌19日の午後9時頃から雨量が増え、翌20日には洪水量(6m³/秒)を超えたため、洪水調節を開始し、23時10分には流入量が洪水量を下回ったことから、洪水調節を終えています。

大和ダムの効果により、河川流量のピークを59m³/秒から37m³/秒に低減させ、2時間50分遅らせることができました。

また、ダムがなければ、ピーク時で59m³/秒の洪水が下流に流れていたものを、ダムで47m³/秒に相当する量を貯留し、下流へは12m³/秒しか流さないようにできたことになり、三田川水位を1.80m下げることができました。

本川の大和川においても約0.4m下げる効果がありました。

